

GOOD DESIGN
AWARD 2018

都心狭小間取りにおける空間提案『HITO-TUBO〈ヒトツボ〉』

「2018年度グッドデザイン賞」受賞

伊藤忠都市開発株式会社(東京都港区、代表取締役社長:松典男)は、分譲マンション「クレヴィア池袋 West」にて導入した『HITO-TUBO〈ヒトツボ〉』が、2018年度グッドデザイン賞(公益財団法人日本デザイン振興会主催)を受賞しましたのでお知らせ致します。今回の受賞により、2007年から12年連続の受賞となります。

当社は、今後も、お客様のニーズや社会の変化にあわせた商品開発を行うとともに、未来を見据えた新たな価値を創造しながら、快適な住まいを提供して参ります。

<受賞プロジェクトの紹介>

■都心狭小間取りにおける空間提案 HITO-TUBO〈ヒトツボ〉

東京都豊島区西池袋で開発中の「クレヴィア池袋 West」において、住戸内の約1坪(約1.8m×約1.8m)の限られた空間を利用し、居住者の理想とする暮らしを叶える8タイプの体験型空間を開発・提案しました。

専有面積に限りがある都心のシングル・DINKS向け分譲マンションにおいて、画一的な間取りではなく、理想的な住まいを提供したいと考える中、消費者のお金をかける対象が”モノ”の所有ではなく、”コト”(体験)に変化している新たな消費者トレンドに着目。さらに、働き方改革等による社会の変化から、家での過ごし方”コト”がますます多様化すると考え、新たなニーズを捉えるべく住まいに関する調査を実施したところ、約9割の方が住まいでやりたいことがあるのに実現する為のスペースがないことに不満を感じていると判明。その不満を払拭する理想の住まいを提供すべく開発しました。

分譲マンションではこれまで寝る、食べる、寛ぐといった「居住」の視点を中心に作られていましたが、+αとして様々な”コト”を体験できる空間の提供を実現したことで、購入時に、専有面積や価格だけでなく、住まいでどんなコトがしたいかという新しい判断基準での住まい選びを可能としました。



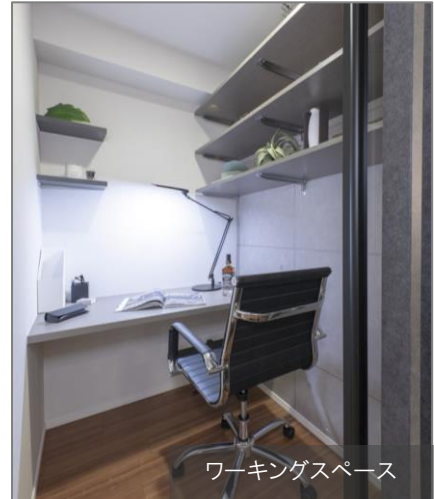
<審査員評価コメント>

大規模な分譲マンションでは、戸建てや小規模のコーポラティブハウスのように、自分が望む暮らしにあった住まいをカスタマイズすることは難しい。この計画では、小さな一坪ではあっても大規模住宅においてカスタマイジングの可能性を追求した点が素晴らしい。一方で一坪のデザインは、特徴を出そうとするあまり、他の部屋から浮いた存在になりそうでもある。全体で、程よいカスタマイズができる新しいアイデアにも挑戦して欲しい。

【マンションギャラリーにて展示中の『HITO-TUBO<ヒツボ>』空間】



プライベートブティック



ワーキングスペース

※「クレヴィア池袋 West」での<ヒツボ>セレクトメニューの申込受付は終了しました。
なお、2018年11月中旬販売開始予定の「クレヴィア池袋 East」においても、<ヒツボ>の導入を予定しております。

<「クレヴィア池袋 West」物件概要>

事業主：伊藤忠都市開発株式会社
所在地：東京都豊島区西池袋2丁目38番12(地番)
交通：JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン・
東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線・
西武池袋線・東武東上線「池袋」駅徒歩5分
総戸数：64戸
構造・規模：鉄筋コンクリート造 地上15階建
敷地面積：457.54㎡
間取り：1K～2LDK
竣工時期：2019年3月上旬
設計・監理：株式会社三輪設計 東京本社
施工：株式会社合田工務店 東京支店



【エントランス完成予想CG】

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>
伊藤忠都市開発(株) 広報室/有吉 TEL:03-6811-0221